

ぶどうの樹

2015.12

NO.

17



写真：学院創立70周年記念式典（2015.12.1）

INDEX

特集1：学院創立70周年
特集2：プロジェクト科目

6 社会人学生へのインタビュー

7 卒業生インタビュー

8 社会連携事業

9 同窓会 / 保護者会からのお知らせ

10 チャペル通信

11 学院創立70周年記念寄付事業



平和を願い70年

学校法人
長崎学院

創立70周年

2015年12月1日、学校法人長崎学院は創立70周年をむかえました。



創立記念日「感謝のことば」

あわ ひろし
長崎学院 理事長 栗屋 曠

本日は、多数の皆様にご臨席を賜り感謝申し上げます。式典の後、青山武雄先生がごだわれ、泉校舎の寮にその名を残された「フルベッキ」について明治学院大学の西先生にご講演いただけることは、この上ない喜びであります。長崎学院は、数多くの苦難・辛苦を乗り越え、創立70周年を迎えることが出来ました。今日の地位を築いて下さった創立者をはじめ、多くの方々のご支援に対して、衷心からの感謝を申し上げます。

この70年を本学の特徴を示すキーワード「長崎、外国語学校、建学の理念」に沿って振り返ってみたいと思います。当学院の在る長崎は、1571年(元龜2年)に開港されましたが、長崎は古くから海外との交易で栄え、海外文化移入の一大拠点となり、維新前すでにわが国最初の外国語学校が開設されるなど、日本各地から有為の青年たちがはせ集い、近代日本の揺籃となりました。そしていまなお国際的雰囲気の色濃くとどめる長崎は、外国語教育に最適の地でもありました。その長崎は、1945年8月9日たった一発の原爆によって廃墟となりました。その灰燼くすぶる中で、本学設立の準備が始まったのであります。

第二次世界大戦の終結は日本の社会に深刻な衝撃を与え、未曾有の精神的・物質的荒廃をもたらしました。虚脱状態でありました若者たちに学ぶ場を用意して、学ぶ意欲と喜びを取り戻させたい。そして新しい日本を担う人材育成をと、初代学長青山武雄先生そして初代理事長古屋野宏平先生を中心とした創立者たちが決意したのであります。

日本の将来を担う人物は、世界的な視野と教養を身につけた人格者で在らねばならない。争いのない世界平和と人類の共存共栄の理想を実現するためには、「敵意という隔ての壁」を取り壊すために、外国語を使って異なる

国々の人々と対話し、異文化を理解し尊重する若者を養成しなければならぬ。そして日本の良心たる、そのような自立した人間の教育の基盤は、キリスト教の「隣人愛」「献身と奉仕の精神」「真理と自由の探求」という普遍的な価値観にこそ置かれるべきである、と創立者たちは考えたのであります。

このような信念のもと、1945年12月1日、長崎馬町教会に長崎YMCA仮事務所を設け、長崎YMCA活動開始の準備と長崎外国語学校創立事務所をもうけました。そこで授業が始まりました。これを母体として1947年に長崎外国語学校・専門部・夜間専攻科、1950年には長崎外国語短期大学を設立し、2001年4月に設立された長崎外国語大学は15年を迎えます。「私学は創立のビジョン・精神を継承していく組織体である」の言葉通り、創立者たちの理念が継承されています。学則には、「本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授・研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与する人材を育成することを目的とする」と謳っています。

校舎は1948年(昭和23年)元大工町⇒1959年(昭和34年)住吉町・泉町⇒1996年(平成8年)現在地と移転しましたが、この理念は堅持され続けています。本学院のこの建学の精神は、創立記念日やスクールモットー、さらには校章にも表されています。創立記念日は12月1日であります。スクールモットーは、「わたしは道であり、真理であり、命である」というイエス・キリストの言葉であり、その「道・真理・命」を意味するラテン語のVIA VERITAS VITA (ウィーア・ウェーリタース・ウィータ)が校舎正面に大きく掲げられています。また校章は、その頭文字のVを三つ組み合わせさせたデザインとなっています。この創立者たちの理念、建学の精神は本学が続く限り、堅持することが残された我々の使命だと思い、「過去に感謝をし、将来に責任を持つ」ことを堅く心に留め、次の一步を踏み出したいと考えています。

今後とも変わらぬご指導、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。感謝の祈りを捧げ、感謝のことばといたします。



長崎学院創立70周年・ 大学開学15年目にあたって

いしかわ あきひと
長崎外国語大学 学長 石川 昭仁

長崎学院は、長崎外国語学校を起源として、1945年、第二次世界大戦が終わった年に発足しました。言うまでもなく、長崎は、広島とともに原子爆弾の悲惨を経験した町であります。長崎学院は、原子爆弾の惨禍の中で、戦争に対する深い反省とキリスト教の人間愛の精神に基づいて創設されたのです。その根本は、世界の平和と人類の共存共栄のためには、若者たちが外国の言葉を学び、その背景にある各民族の豊かな歴史や文化、ものの考え方やものの感じ方を学び、国や民族を超えて相互に深く理解し合うことが何よりも大切であるという理念です。この理念の実現のために、

1950年に長崎外国語短期大学が設置され、2001年には長崎外国語大学が開学いたしました。長崎学院70年、長崎外国語短期大学60年、長崎外国語大学15年の発展の歴史は、幾多の先達の高い志と情熱、そして苦難と努力によるものであり、改めて深甚なる敬意を表したいと存じます。

さて、今、大学をとりまく情勢は、大変厳しいものがあります。国内では生産年齢人口の急減、労働生産性の低迷、地方創生への対応等、国際的にはグローバル化・多極化の進展など、新たな時代に向けて国内外に大きな社会変動が起こっております。このような状況を踏まえ、長崎外国語大学は、グローバル人材育成を主眼とする中長期計画2014-2020「長崎外大ビジョン 21」を着実に遂行し、課せられた使命を果たすとともに、これまでの歩みをさらに発展させ、地域社会はもとより、広く国内外で欠くことのできない大学として確固たる地位を築いてまいり所存でございます。

皆様には、引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

G.F. フルベッキ博士を通じ本学院の新未来を



写真:学院創立70周年記念講演会(2015.12.1)

本学院創立70周年を記念して『日本近代の養父G.F.フルベッキ博士と長崎外国語大学への期待』と題した特別講演を、明治学院大学経済学部教授の大西晴樹先生にお願しました。同教授は若くして明治学院大学長および同学院長を歴任され、また文部科学省学校法人運営調査員も務めていらっしゃいます。

お話の内容としてはまず、長崎外国語大学の出自に触られました。1945年12月1日の日本基督教団馬町教会に「長崎基督教青年会」(YMCA)が再建された日と定めてある事実に特別な意味があるとし、創立者である青山武雄先生の被爆体験の思いと、教派を超えた長崎市内プロテスタント協会の一一致協力があり、加えてその理事会を通じた長崎市民の心暖まる支援に拠ったと、ヨハネによる福音書12章24節の「一粒の麦」を引用されました。次に長崎開港の1859年に上陸したアメリカ、オランダ改革派教会の宣教師ギドー・F.フルベッキ博士(1830～1898)の働きと人柄を紹介されました。因みに青山先生は同博士に関し熟知されていたようで、昭和38年に本学院が設置した学寮を「フルベッキ寮」と名付けています。しかも講演者の本務である明治学院は、フルベッキ博士の由縁が端緒となって生まれた「東山学院」に設立の淵源があり、学祖を有名なヘボン博士、ブラウン博士、フルベッキ博士の3人に求めているとの指摘がありました。

さらに、フルベッキ滞日中の活躍で特筆すべき事柄として以下の3点があり、近代国家建設の途上にあつた我が国にとって忘れてはならない稀有の人物「財」であつたと言及されました。

- (1)長崎滞在10年間に日本人青年志士を多数鍛えた事
- (2)明治政府に請われて上京し、後の東京大学(現在の駒場教養学部)を設置、加えて政府の各省庁懸案事項の解決に奔走し、また上梓した“ブリーフ・スケッチ”が近代国家の骨格を創ることとなった「岩倉使節団」を生み、当時最大の国家懸案であつた「不平等条約」の改正と「信徒の自由」獲得に繋がった。
- (3)同博士の貢献は広範囲の学校教育に止まらず、当時の日本青年の海外留学の斡旋としても実を結び500名のうち半数以上が同博士の貢献によるものだった。

これらの功績によって、明治政府によって生前、勲3等を叙し、東京にて亡くなった際には明治天皇が100人を余る近衛兵を葬儀に遣わせ、一方では500円の御下賜金(当時の総理大臣の給与並み)を贈っています。

まとめにあたり講演者は、長崎外国語大学への期待として、フルベッキが生きた150年前の時代環境とは大きく異なるが、長崎外国語大学における教育・研究が、学生達が長崎ならではの学問的関心を喚起し、そこから成長した学生達が多くの実を結び、国の内外で活躍し、世界と地域において平和と繁栄をもたらすことを強く望むと結ばれました。

満員の会場は大西先生のお話にとっても感激し、ギドー・F.フルベッキの精神を本学院こそが受け継いでゆかねばと胸に深く感じ入る所となりました。

写真: 大西晴樹先生(左)、吉田 勉(右)
みぞた つとむ
文責〔総括副学長 溝田 勉〕

創立 70 周年をお祝いします

あなん ぶみよ

阿南 婦美代

(長崎外国語大学 名誉教授)



長崎学院創立70周年を心からお祝いします。

私は短大でのフランス語の非常勤講師から始まり、専任教員としては丸30年、2011年3月まで勤務しました。この30年は私自身の人生の中でも重要な時期でもあり、多くの思い出があります。何よりもパリ大学で学んだ新しいフランス語教育を実践できたことは幸せでした。また、実用フランス語検定試験の導入、発信型教育の一つとしての九州地区でのコンクールの主催、他大学に先んじてフランスの大学との相互交流など、多くの新しい試みも実現できました。学生の皆さんの努力の結果ですが、4年制大学への編入制度もできました。

大学が発足してからは、短大時代の行事に加え、チューター制度やフランス語週間も始めました。新しいことを始める時は教員たちも頑張りましたが、実際に成果を出せたのは学生の皆さん達の素直な頑張りでした。本当に学生に恵まれていたと今も感謝しています。卒業生の皆さんも、学生時代、集中して行事をこなした体験は、その後の人生の色々な場面で懐かしく思い出されているのではないのでしょうか。私も大学での思い出と共に、フランスでの研修中の楽しい出来事は、一人でフランスに行く今も、懐かしく思い出します。

最後に、長崎学院70年の歴史の中で築かれた伝統を基に、長崎外国語大学が今後ますます充実・発展することを心から祈っております。

創立 70 周年を迎えて

ロレッタ・R・ロレンツ

(長崎外国語短期大学 名誉教授)



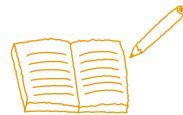
長崎学院創立70周年を迎え、このすばらしい学院に関係したすべての方々と共にお祝いできることは、私の喜びとするところです。以前は「外語短大(GAITAN)」と呼ばれていましたね。

泉町にあったあの居心地の良いキャンパスは、建物の正面の立派なモクレンの木が彩りを添えていました。こじんまりとしたグラウンドで毎年行われていた学園祭のたき火は、一年間の活動の中でも、ハイライトの一つでした。女子寮は赤レンガでした。同じ赤レンガの三号館にあったホールやラウンジでは、チャペルや文化的なイベントも行われていました。それらは、物質的な物として記憶に残る思い出です。もちろん、学院の歴史を築いた多くの学生と教職員、そして、学院の醸し出す独特の雰囲気である目に見えない精神的な物も、忘れてはならない思い出です。

移転した新しいキャンパス(時津のカレッジヒルと呼ばれていました)はグラウンドも校舎も立派で、長年の夢が叶いました。色々な行事が行われ、新しい事も始まりましたが、昔からの伝統は守りながら、新しい伝統が生まれました。それらは全て、新しい外大の一部なのです。

長崎外国語大学のことを考えるたびに、大学の根幹である三つのV、Via(道)・Veritas(真理)・Vita(命)から作られた校章のことを思い出さずにはいられません。聖書の中で、イエス・キリストは「私は道であり、真理であり、命である」と言いました。そのキリストの言葉を本学に当てはめた場合、「言語の教育」は、「道」と連想され、「言語教育の目的」は「真理」と連想され、そして、「その二つを永続させること」は、「命」と結びつくと考えています。三つのVをそのようにして心に抱くことは、長崎外国語大学が「道」「真理」「命」を追い求める限り、そして、教職員、卒業生、在学生、大学を取り巻く社会、そして家族がその言葉を自分の物にしたいと思いつける限り、これから先、長崎外国語大学から無くなることはないでしょう。創立70周年、おめでとうございます。

かしま たくみ
翻訳:加島 巧 (外国語学部 教授)



プロジェクト科目とは1年間で社会と関わり合いながら、自分たち(グループ)の力で、オリジナリティがありかつ社会的意義のある活動を行なう科目です。本学で学んだ知識を活かし、いろんなプロジェクト科目を実施し、社会が求める実践力・問題解決力=人間力を養っています。

韓国の魅力を発信するプロジェクト

担当：佐々木 正徳まさき まさのり(外国語学部 准教授)

●プロジェクトの目的

「韓国の魅力を発信するプロジェクト」は韓国語専修の4年生5名で実施し、目標を「高校生にリアルな韓国(韓国人)を知ってもらう機会を提供すること」として頑張りました。参加した学生はみんな1年間の韓国留学を終えた後で、異国で外国人として生活を送ることにより生じた、多くの(正負両面の)カルチャーショックを、記憶が新しいうちに伝えたいと感じていました。伝える対象も、学生たちの経験をふまえて決めました。「リアルな韓国(韓国人)に接したいと考えている高校生」とは、まさに数年前の自分たちの姿でした。でも、高校生の段階で韓国に日常的に触れることのできる学生はほとんどいません。音楽やドラマ、あるいは旅行などで多少の関わりをもつことはできますが、そこで形成される韓国イメージは漠然としたものです。もしくは過度に抽象化されたものだと思います。「高校生の時にもっと韓国のことを学んだり、韓国人とコミュニケーションしたりしたかったなあ」という自分たちの思いを、今回のプロジェクトに結びつけました。

●学生の取り組み

実施した企画は、韓国語講座と交流合宿です。韓国語講座は4月24日から6月26日、チトセピア内にある公民館で、金曜日の18時から19時の時間帯で計9回実施しました。学生たちと数名の韓国人留学生在が協力して、参加した高校生に韓国語の基礎を教えました。回を重ねるごとに高校生が増えていき、多い回には30名近く来たこともありました。当初は隔週開催の予定でしたが、高校生からの好意的な反応が励みになったようで、特別な事情がない限り毎週実施にきりかえました。最終日には新聞の取材にもきていただきました。

交流合宿は6月13・14日に諫早少年自然の家で実施しました。高校生と韓国人留学生在で数名のグループをつくり、オリエンテーリング、炊事、ゲームなどで

親交を深め、お互いの文化の違いについてポスター発表を行いました。あいにく天気には恵まれませんでしたが、参加者・企画者ともに大きな達成感を得ることができました。

学生たちは毎日のように集まり、準備をしていました。就活と並行しての活動だったので、全員が集まる日はほとんどありませんでしたが、その日に集まれるメンバーがそれぞれ主体的に活動を行っていました。相当にハードな日々だったと思いますが、逆境により、むしろ団結力も責任感も高まったようで、教員から何かを働きかけることはありませんでした。



マスコットのパンハムくん

●その他

これまでの人生で、全面的に頼られる存在になった経験がほとんどないような学生たちにとって、高校生から「お姉さん」と呼ばれ、慕われ頼られることは、この上もない喜びとなり、モチベーションを維持する大きな要因となったようです。



韓国語教室が取材を受けました



交流の様子はチエキでパチリ!

国際交流プロジェクト 2015

●プロジェクトの目的

2013年度から続いているこのプロジェクトは、一貫して「長崎市民と「訪崎・在崎」外国人との交流を促進すること」を目的としています。そのために例年「食」と「料理」をテーマにしたイベントを開催しています。参加者(主に中高生)と本学の学生・留学生在とが、2013年度は「世界のスイーツ」を、2014年度は「世界のB級グルメ」を一緒につくって交流を深めてきました。現在進行中の2015年度版は「郷土料理」をテーマに、来年1月に開催される予定です。なぜ「食」と「料理」かといえば、食べ物への関心は言葉の壁を超えるとという発想が根底にあるからです。たとえ互いの言葉が十分には理解できなくても、調理の共同作業の中では自然と意思の疎通が図られるはずで、見たことのない食べ物、食べたことはあっても作ったことはない料理など、物珍しさをきっかけに、国際的な相互理解を深めてもらいたい、というのが基本コンセプトです。異文化コミュニケーションが生まれるきっかけをよく知っている、本学学生ならではの企画といえるでしょう。

このプロジェクトは、初年度から長崎平和推進協会の支援をいただいています(アジア青年平和交流事業)。ささやかな心の通い合いこそが平和の原点であるという、本学学生の思いが理解されたことに感謝します。

●学生の取り組み

活動の中心は、イベント内容の企画と準備、広報活動です。授業として行われている毎週90分のミーティングの他に、2~3回の試食会を行います。これはイベント本番で作る予定の料理を実際に作り、分量や手順を確認するためのものです。毎回国際色豊かな献立となるので、ミーティングや試食会の段階から留

担当：坂本 彩希絵さかもと さきえ(外国語学部 講師)

学生も加わって、準備に万全を期します。FacebookなどSNSを駆使しての広報活動にも余念がありません。昨年度はFacebookのPRを見たエフエム長崎放送よりオファーがあり、リーダーの学生らがラジオ出演しました。イベントを楽しむには、イベントを成功へ導くには、どうしたらよいかという明確な問いがメンバー間で共有されているので、目的へと向かった準備が、非常に順調に進められます。この経験は社会に出てからも、きっと生きるにおもいます。

プロジェクト科目の活動は通常1年で終了ですが、この「国際交流プロジェクト」は例外で、今年で3年目になります。前年度の履修者から次代へ、経験が受け継がれるのがこのプロジェクトの特徴です。昨年のイベントはかなり質の高いものでしたが、それでも多々反省点がありました。それを活かして、今年は更に磨きをかけてほしいと思っています。とはいえ、プロジェクト科目全体の開講形態の変更と、長崎平和推進協会の助成制度との兼ね合いで、今年は例年の半分の準備時間しかとれません。メンバーも大半が2年生のため、負担が大きくなりすぎないか、若干の不安はあります。先輩たちとの連絡を密にしてなんとか目標を達成してくれることを期待しています。



社会人学生へのインタビュー



かやの まちこ
茅野 町子さん
(現代英語学科 4年)

・本学を選んだ理由は何ですか

昔、英語と中国語を勉強していたことがあり、もっとペラペラ話せるようになりたいと思い語学が学べるところを探していました。長崎外大は1つの言語だけではなく、色々な言語が学べるうえ、留学にも行くことができる環境が整っていたので、迷わず長崎外大に進学を考えました。授業料減免制度があったことも大きかったですね。

・長崎外大での授業はどうですか

3年生になって忙しさもより増してきたと思います。英語、中国語以外に韓国語も勉強していました。欲張りすぎたかなとは思いますが、東アジアの文化だけではなく、ヨーロッパの文化・歴史も学ぶことができるので毎日が新しい発見でした。また、日本語教員基礎資格取得講座もとっていたので、長崎外大のプログラムは終わりがありません。それぐらい学ぶことがたくさんある環境だと思います。

・留学も経験されたみたいですが、どうでしたか

中国に1年間留学に行ったのですが、アフリカ、タイ、インド、韓国、ロシア、タジキスタンなど世界各国の人と交流することができました。学期末の試験が終わった後、クラスメイトと街にくりだしてパーティーをしていましたよ。寮に住んでいたのですが、寮の中でも韓国人やタイの人と交流をとっていました。授業は、課題が与えられてプレゼンの授業があったり、スピーキングの授業があったり、しっかり中国語を学ぶことができました。宿題は自主性だったのですが、しっかりと添削してもらっていたので、中国語力がどんどんついていくのが分かってきました。

・入学して充実感を感じる場面や大変だと感じる時はどのような時ですか

課題を与えられて、試験などでいい点数がとれた時には、すごく充実感を感じています。試験の後は、社会人同士で集まり、街に飲み

いったりもしているんですよ。そこで情報交換やお互いの近況報告ができるので、非常に有意義な時間です。大変だと思うことは、レポートが多いことですね。普段生活するうえで文章を書く習慣がないので、大変です。しかし、日本語力や表現法などが身につくので必死に勉強しています。

・入学してから今までどのようなことに力を入れましたか

とにかく勉強できる環境をもらったので、授業でまず休まないこと。出された課題をしっかりとこなすことですね。あとは、長崎外大のカンパセーションパートナー制度を利用して、留学生と積極的に交流をしていました。留学中にも学ぶ意欲は高く持ち続け、語学力をしっかり身につけることができましたし、クラブ活動で太極拳もしていました。語学力だけではなく、文化や歴史も幅広く学ぶように色々なイベントにも参加していました。

・大学生と一緒に学ぶ環境はどうですか

想像していたよりも大変でした。積極的な学生はコミュニケーションを自分からとって話しかけてくるのですが、学生によって差が大きかったですね。また長崎外大は、社会人だからと言って大学生と区別するわけではなく、同じように何でもさせてもらえるし、留学も行くことができるし、すごく良かったです。

・現在、或いは卒業までの目標があれば教えてください

資格取得を目指してレベルアップしていきたいですね。また、中国語ももっと話せるようになりたいと思います。卒業までには英語、中国語、韓国語はできるところまでしっかりと勉強していくつもりです。将来は日本語教師になりたいと思っていますので、日本語教師の資格取得に向けても力を注いでいくつもりです。

・最後に大学での学びを検討されている方にメッセージをお願いします

迷っているのであれば、挑戦してみた方が良いと思います。毎日忙しくて大変だけど充実感はあると思います。大学は今まで勉強したことがないことにふれることができますのでお勧めです。語学だけでなく、政治や経済、国際情勢など自分の知識の幅が大きく広がるので、ぜひ長崎外国語大学に入学して学んでください。

在校生活動紹介

よしおか のぞみ

吉岡 希さん (国際コミュニケーション学科3年)

大学生観光まちづくりコンテスト 2015 大分ステージに、佐賀大学・福岡大学・立命館大学の仲間とチームを組んで参戦し、JTB 賞を受賞。

私は留学から帰国後の夏休みを利用し、他大学の友達と大学生観光まちづくりコンテスト大分ステージに参加しました。ゼミなどではなく、県を跨いだチームであったため時間がなかなか取れず SNS や PPT などを駆使しながら話を進めていくしかありませんでした。本番でも自分たちの想いを一生懸命伝えることしか出来ませんでした。そこを評価していただき JTB 賞という名誉ある賞を受賞することができました。この賞は多くの地域住民の方々、またメンバーに支えられ受賞することができたと思っています。壁にぶつかることもありましたが、挑戦できたこの機会を糧に今後も精進する次第です。



卒業生インタビュー

2015年9月1日より就任された本学の卒業生。本学を卒業後、留学生への日本語教員として活動するお二人にインタビューをしました。



ほりかわ えいじ
堀川 瑛司
(外国語学部 助教)

国際コミュニケーション学科
2011年卒業

・学生時代は何を勉強していましたか。どんなことに力を入れていましたか。

堀川先生：1年生から英語とフランス語を勉強していました。カンパセーションパートナー制度を使い、留学生とも積極的に交流をしていました。大学生活4年間で日本語教員基礎資格取得講座に一番力を入れたかなと思います。実際に模擬授業では、どうすれば留学生に日本語をうまく伝えられるか毎日頭を悩ませていました。

宮瀬先生：私は、英語と中国語の2言語を勉強していました。在学中に2カ国留学に挑戦し、学ぶ環境も全く違うので大変でしたがすごく充実していました。留学から帰国後、日本語教師に興味を持ち、日本語教員基礎資格取得講座をとって本格的に日本語教員の知識を身につけていきました。

・学生時代の思い出はありますか。

堀川先生：冗談も言い合えるような色々な人に出会えたことです。学内には多くの留学生がいて、カルチャーショックをたくさんうけました。日中断食の文化があるイスラム教徒の友人の前で食事をするのは心苦しかったのを今でも覚えています。

宮瀬先生：2カ国留学したことです。留学先の大学で「日本語クラブ」に入っていたのですが、その中で「は」と「が」の違いは何など、留学生からたくさんの質問を受けました。日本人なのに正確に答えることができず、はがゆい気持ちをした覚えがあります。

・いつ頃から日本語教師を目指そうと思いましたか。

堀川先生：大学3年生頃です。ツアーコンダクターの資格も在学中に取得していたので、旅行会社で働くか、日本語教師の道にすむか迷っていましたが、将来は海外に住んでみたい憧れがあったので、日本語教師だったらその夢を実現できるかなと思い目指そうと思いました。

宮瀬先生：留学帰国後からです。英語教諭にもなりたいたいと思いつつも教職課程もとっていたのですが、将来は外国の人と交流したいという思いが強くなり、日本語教師の道を選びました。

・今母校で学生に教えてみていかがですか。

堀川先生：中国の大学で3年間学生に教えていたのですが、授業の進め方など全て自分で決めていました。長崎外大では、先生同士のチームミーティングの回数が多く、多くのアドバイスをもらうことができます。どうすれば学生のためになる



みやせ みき
宮瀬 美紀
(外国語学部 助教)

現代英語学科
2013年卒業

のか、授業の楽しさや伝え方など試行錯誤しながら教えています。

宮瀬先生：すごく難しいなと感じています。私も堀川先生と同じ中国の大学で3年間教えていました。中国の大学では、漢字圏なのである程度は日本語を理解して聞いてくれるのですが、長崎外大は中国人だけではなく、世界各国の留学生が来ているため、中国人には伝わるが、アメリカ人には伝わらないなど、一筋縄ではないことが多いです。また、学生によって授業の進め方も違ってくるので大変ですね。

・教壇に立つうえで大変なことはありますか。

堀川先生：授業準備が大変です。中国の大学では、最初の方は5時間ぐらいかけて自分でシナリオを作り考えていました。今は以前に比べ要領も分かってきたので3~4時間で作っていますが、それでも大変だなと感じています。また、年齢的にも学生と近い距離なので、友達感覚にならないようにメリハリを気を付けています。

宮瀬先生：私も授業準備は時間をかけていますね。あと色々な国籍の学生が来ているので学習や生活面でのサポートなどコントロールが大変ですね。

・今後の目標を教えてください。

堀川先生：生活が潤うぐらいキャリアアップしたいですね。

宮瀬先生：経験がまだ浅いので色々な学生とふれあい、自分自身を成長させていきたいです。今できることをこつこつしっかりやっていくことですかね。

・先輩にメッセージを一言お願いします。

堀川先生：今日本語の「語学村」というものを昼休みに開いているんですが、なかなか日本人が参加してくれないんです。一步踏み込むだけでも、新しい考え方をもてると思いますが、世界が変わると思います。勇気をもってなんでもチャレンジしてください。

宮瀬先生：学生時代もっと勉強しておけばよかったと思っています。この大学は語学だけではなく、教養もしっかり身につけることができます。社会にでたら誰も助けてくれませんが、しっかり勉学に励んでください。



の、授業の楽しさや伝え方など試行錯誤しながら教えています。

私も堀川先生と同じ中国の大学で3年間教えていました。中国の大学では、漢字圏なのである程度は日本語を理解して聞いてくれるのですが、長崎外大は中国人だけではなく、世界各国の留学生が来ているため、中国人には伝わるが、アメリカ人には伝わらないなど、一筋縄ではないことが多いです。また、学生によって授業の進め方も違ってくるので大変ですね。

・教壇に立つうえで大変なことはありますか。

授業準備が大変です。中国の大学では、最初の方は5時間ぐらいかけて自分でシナリオを作り考えていました。今は以前に比べ要領も分かってきたので3~4時間で作っていますが、それでも大変だなと感じています。また、年齢的にも学生と近い距離なので、友達感覚にならないようにメリハリを気を付けています。

私も授業準備は時間をかけていますね。あと色々な国籍の学生が来ているので学習や生活面でのサポートなどコントロールが大変ですね。

・今後の目標を教えてください。

生活が潤うぐらいキャリアアップしたいですね。

経験がまだ浅いので色々な学生とふれあい、自分自身を成長させていきたいです。今できることをこつこつしっかりやっていくことですかね。

・先輩にメッセージを一言お願いします。

今日本語の「語学村」というものを昼休みに開いているんですが、なかなか日本人が参加してくれないんです。一步踏み込むだけでも、新しい考え方をもてると思いますが、世界が変わると思います。勇気をもってなんでもチャレンジしてください。

学生時代もっと勉強しておけばよかったと思っています。この大学は語学だけではなく、教養もしっかり身につけることができます。社会にでたら誰も助けてくれませんが、しっかり勉学に励んでください。



本学教員の新刊紹介

かみよし ういち
神吉 宇一編・著

『日本語教育 学のデザイン—その地と図を描く』

2015年、凡人社、2,808円(本体2,600円)

社会における言語教育の役割とは「ある言語に関する知識やスキルを高めること」だと思われがちです。しかし、機械翻訳技術の向上等により、そのような役割はいずれ絶滅するのではないかと思います。私は日本語教育を専門としていますので、日本語教育学というものを通して、次世代を担う人材育成や社会変革にどのように寄与できるかという問題意識から本書を編みました。本書は3部構成で、特に第3部は多様な識者による日本語教育論となっており、継続企画として、順次HPに新たな原稿をアップしています(<http://bonpublishing.wix.com/design>)。言語教育について改めて考えてみたいという方にぜひ手にとってほしいと思います。(外国語学部 特任講師)



主な社会連携事業 (2015年7月～)

- 7月24日
8月3日・6日・7日 長崎市滑石公民館主催「わくわく！ワールド(全4回)」の講師として学生・留学生を派遣
- 8月3日 長崎国際大学と包括的連携に関する協力協定を締結
- 8月4日 時津公民館主催「英語で遊ぼう子ども教室」の講師として教員・留学生を派遣
- 8月5日・6日 長崎市・長崎市教育委員会主催「世界こども平和会議」に教員・学生を派遣
- 8月8日・9日 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典における外国人特別来賓者の随行兼フロア通訳者として学生を派遣
- 8月23日 公開講座「長崎の歴史と文化」を開催
- 8月24日～27日 全国外大連合主催「通訳ボランティア育成セミナー」に本学学生を派遣
- 8月29日 シニア向け公開講座「『剣客商売』『女武芸者』を読む」を開催
- 10月17日 公開講座「長崎と平和」を開催
- 10月23日 全国外大連合と公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会が協定を締結
- 11月11日 台湾 国立政治大学附属高級中学と本学学生との交流会を開催

本学では上記以外にも様々な社会連携事業を行っております。
詳細は本学ホームページ「社会連携の取組」よりご覧頂けます。
URL : <http://www.nagasaki-gaigo.ac.jp/CCRCC/torikumi/>

世界こども平和会議

8月5日、6日に長崎ブリックホールで開催された「世界こども平和会議」(主催:長崎市・長崎市教育委員会)に司会者4名と通訳補助者として英語5名・フランス語6名の学生を派遣しました。

この会議は、過去・現在・未来を通じて平和を考えることを目的とし、悲惨な被爆の【過去】を学び、自分たちが生きている【現在】についてみんなで考え、そして自分達が思い描く平和な【未来】を想像し、世界に向けて会議宣言を行うもので、122の国と地域から海外、日本合せて約250名の青少年が集いました。



通訳ボランティア育成セミナー

8月24日～27日の4日間にわたり、全国にある7つの外国語大学が連携して実施したプログラム「通訳ボランティア育成セミナー」が開催されました。関西外国語大学、神田外語大学、京都外国語大学、神戸市外国語大学、東京外国語大学、名古屋外国語大学、長崎外国語大学の7つの大学から総勢240名が参加し、本学からは21名の学生が参加しました。今回のセミナーでは、「オリンピックの歴史」や外国人を迎えるための「おもてなし講座」、「日本文化と異文化の理解」、「通訳の技法」などを学びました。受講者は今後、人材バンクに登録し、国内で開催される国際大会で通訳の経験を積むこととなります。



同窓会共催第3回OB・OG会を開催

去る10月31日、11月1日に第3回OB・OG会を開催致しました。

伝統ある第65回外語祭も開催されており、今回から母校の全面的なご支援を受け同窓会主導の形で参加させていただきました。お陰様で、過去2回を超える150名の卒業生や地域の方々にご来場いただき賑わいました。

初日の10月31日には、キャンパスツアーを行い、母校の教育施設の充実に目を見張るものがあり、驚きと感嘆の声があがりました。2日目の11月1日は、日曜日ということもあり、フェイスブックで見た人や県外からの卒業生も来場されました。これを機に同窓会と致しましては、来年も更に多くの方のご来場をおまちしており、役員一同検討を重ねてまいります。是非、お足をお運び下さい。



お問合せ

同窓会事務局
TEL&FAX : 095-840-2010 E-mail : dosokai@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp

同窓会福岡・大分ブロック支部会員の皆様へ

2015年2月22日ホテル日航福岡にて開催致しました福岡・大分ブロック支部発足式には、長崎学院より栗屋曠理事長様をはじめ、長崎外国語大学学長の石川昭仁様、同窓会名誉会長の吉田親生様、同窓会会長の平野大壽様他約60名の支部会員様にご出席頂き、盛大に行うことができました。また、福岡・大分県以外の方々も遠方から参加され、久しぶりに旧交を温めることができました。これも偏にみなさまがたのご支援・ご協力の賜物と感謝申し上げます。

さて、福岡・大分支部役員会を開催し、支部発足式の反省と今後の活動について話し合いを致しました結果、来年も再び福岡市にて支部発足式を開催する運びとなりました。

日時は、2016年9月4日を予定しておりますが、詳細につきましては、次回発行の「ぶどうの樹」にてお知らせ致します。

前回参加できなかった方も是非ご参加下さい。

福岡・大分ブロック支部長 森 美津子

保護者会だより

日頃は、保護者会にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

保護者会では、2015年度も5月の定期総会で承認された事業計画にしたがって折々の事業、行事を皆様のご協力を得ながら実施しています。新規の事業といたしましては、8月に通訳ボランティアセミナー参加者(21名)の旅費の一部支援を行いました。また、今後はインターンシップの交通費の一部支援についても、理事会で協議の上実施していきたいと思っております。

10月に開催いたしました地区別保護者懇談会は、今年度より福岡・長崎会場の2会場とさせていただきます。昨年度まで福岡・長崎に加えて、一年ごとに大分または鹿児島会場と3会場設けておりましたが、ご出席いただく方が少ないことと、大分・鹿児島の方でもお住まいの地域によっては、福岡の方が都合良いこともあるのご意見を頂いたためです。10月の地区別保護者懇談会と5月に開催しております定期総会では留学や就活などについて最新の情報交換や、先生方に学業成績だけでなく学生生活で不安な事や心配な事に関するご相談もいただけます。また、在学生による発表によって、学生生活、留学体験談、就活について直接話しを聞くことができます。大変貴重な機会ではないかと思ひます、ご多用の事とは存じますが、是非、次年度はより多くのご出席を心よりお待ちしております。

今後も大学と保護者の皆様との架け橋となるよう、より充実した学生生活のサポートに努めてまいりたいと思ひますので、引き続きご支援の程を宜しくお願い致します。

長崎外国語大学保護者会 会長 森田美保子

[No.1] Tシャツ色：ブラック
プリント色：ネイビー



[No.1] Tシャツ色：ホワイト
プリント色：ネイビー



[No.2] Tシャツ色：ライトイエロー
プリント色：ライオン



[No.2] Tシャツ色：ファイバーグリーン
プリント色：ホワイト



[No.3] ポロシャツ色：バーガンディ
プリント色：ホワイト



[No.3] ポロシャツ色：ブライトグリーン
プリント色：ホワイト



今年の外語祭でも、外大オリジナルTシャツ・ポロシャツを販売しました。

『麦の穂を揺らす風』 (The wind that shakes the barley)

2006年・アイルランド・英国
(Sixteen Films・Matador Pictures)

1920年のアイルランド南部の町コークから映画は展開し、冒頭のいくつかの場面で主人公の運命を変える。タイトルバックでハーリング(ホッケーみたい)に興じている若者たちの一人、デミアンが主人公である。ロンドンの病院で医者となる彼が知人宅に別れの挨拶を告げ



に仲間と共に立ち寄ったところへ、英国治安警察部隊がやって来て彼らは尋問を受けるのだが、一番若いその家の少年が英語を話すことを拒否し、納屋の中で拷問され殺されてしまう。こうした状況から逃れるように、デミアンがロンドンに出発しようとしていた駅で、彼は業務規則により武器所持者の乗車を毅然として拒否した駅職員らに暴行した英国兵たちを目撃する。翻意したデミアンはロンドンには行かず、故郷でIRA(Irish Republican Army)に加入し、独立への戦いに武器を取った。

1919年からゲリラ的な攻撃がアイルランド駐留英国軍に対して行われ、これが実質的なアイルランド独立戦争となった。1921年12月英国との間に愛英条約が調印され、1919年1月のアイルランド共和国議会宣言が実現すると思われたが、その条約は実際にはいわゆるアルスター地方6州は英国の直接統治下にとどまらせ(ベルファスト合意はほぼ80年先!)、南アイルランドはアイルランド自由国として独立はするが英国の自治領という扱いにすぎない内容であった。映画はここから悲劇へと雪崩れていく。

ケン・ローチ監督は、自由を求める主人公デミアンとその兄テディの葛藤を圧倒的に描こうとした。デミアンは当初、ロンドンの病院で医師として働こうと不自由なアイルランドを離れようとしたが、アイルランドの人びとや文化や風土が英国に踏みこみじられていることを見過ごすことはできなかった。兄テディは弟よりも以前に独立運動に身を投じていた。兄弟そろって独立戦争を闘うが、愛英条約が二人の運命を大きく変えてしまう。

支配者の英国を追い出し、独立を達成して共和国を樹立するという目的の旗印の下で一体となることがで

やま かわ きん や
山 川 欣 也
(外国語学部 教授)
(英米文化研究)



きたアイルランドの人びとは、その条約批准をめぐる条約賛成派と条約反対派とに分裂し、悲惨な内戦状態へと突入した。テディは条約賛成派、デミアンは条約反対派と、2人の兄弟にアイルランドの分裂を象徴させ、映画の後半はこの兄弟を軸にして、ただならぬ凄絶な終末に向かって映画は描かれる。

どちらの思いも一つしかなく、それは自分たちのアイルランドの独立と自由である。だからこそ対立の悲劇が起こる。どちらも、仲間や村や風土を思うが故の選択した道が違っただけにもかかわらず。英国はわかっていたかもしれない、仲間割れが起こると。独立戦争後の内戦がなくなる理由がここにある、と監督は言いたいのかも知れない。

アイルランドと英国との対立は歴史적であり、宗教が違う、言葉が違う、つまり文化が異なり、根が深いのである。その貧しさ故に、アイルランドは一方的に支配されてきた。問題点を掘り下げようとするれば、本映画にしても、こうした視角から描くことは十分にできたらうが、そうしてはいない。

例えば、カトリックの信仰厚いアイルランドを描きながら、カトリックの神父が登場するのは2回のみで、1度目は独立戦争の闘いに出発する若者たちに祈りの言葉をおくるシーンであり、2度目は教会での神父の説教(きわめて政治的な発言)にデミアンが反発するシーンである。映画冒頭の惨殺された少年の葬儀には、神父の姿はなく、感動的なアイリッシュ・ソング(映画のタイトルの由来)が謡われるのみである。監督の意図は十分に酌みとることができるように思う。



教育環境の整備に関わる寄付事業

《学院創立70周年記念事業》

学校法人長崎学院は、2015(平成27)年12月1日に学院創立70周年を迎えるにあたり、教育研究に資するための教育環境の整備を目的とした寄付事業を2015(平成27)年4月1日から行なっています。

既に採択性補助金事業の獲得によるプレゼンテーション収録スタジオ設備(写真1)やアクティブラーニング設備(写真2)の導入など、教職員一丸となって鋭意努力を重ねておりますが、今後いっそうの施設設備を含む教育環境の整備が必要と考えております。

皆様におかれましては、「キリスト教精神に基づき、外国語と国際文化に関する知識を教授研究し、国際的な視野と円満な人格の涵養を図り、もって地域並びに人類社会の福祉と発展に寄与しうる人材を育成することを目的とする」という建学の精神にご賛同いただくとともに、厳しい経済環境の中、誠に心苦しく存じますが、教育環境整備のための寄付事業にご支援を仰ぎたく、ここに謹んでお願い申し上げる次第です。



(写真1)



(写真2)

寄付に係る税金の優遇制度について

寄付をされると次の要領で税金が戻ってきます。詳しくは、法人事務局財務課までお問い合わせください。

個人様：寄付金が2千円を超える場合は、超えた金額に40%を乗じた金額が税額控除されます。

【(注)：寄付金額は年間総所得金額の40%、税額控除は所得税額の25%がそれぞれ限度額となります。】

法人様：受配者指定寄付金によって、日本私立学校振興・共済事業団を通じて寄付していただきますと、法人税法上、その寄付金を全額損金へ算入できます。

【事前の手続きが必要ですので、寄付の際は大学にお申し出ください。】

ご寄付のお申し込みについて

お電話またはメールで、ご住所、お名前をお知らせください。
法人事務局より募金趣意書、払込用紙等をお送りいたします。

お問い合わせ先

学校法人長崎学院 長崎外国語大学 法人事務局 財務課 (担当：榎本)

T E L : 095-840-2003 (法人財務課直通)

E-mail : keiri@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp



70周年イルミネーション(校舎入口)